

生涯にわたって患者の口腔内の疾患の発症と再発を予防する医療人を目指して

— 第 2 回「若い歯科医のための Oral Physician セミナー」に参加して—

これからの診療室のあり方を見た

昨年の 12 月 23 日、山形県酒田市の日吉歯科診療所（熊谷崇院長）にて、「若い歯科医のための Oral Physician セミナー」が開催されました。大雪で交通トラブルが相次ぐなか、全国各地から開業を予定している約 50 名の参加者が集まりました。

このセミナーは、日吉歯科診療所が約 25 年の間に実践してきた臨床とデータに基づき、① 齲蝕と歯周病の発症予防、② 再発予防、③ 最小侵襲治療が実践できる診療室づくりを提案し、④ 10 年後の日本および歯科界に対するビジョンを明確にもつことを主旨に、年 2 回開催されているもので、今回が 2 回目です。

治療分野の専門化が進む傾向にあるなかで、治療自体の必要性をなくそうとする「予防」の分野が逆に注目を集めています。とりわけ患者のデンタル IQ が高まっているいま、人々の口腔内をこれ以上悪化させないためのプログラム作りは、患者サイドへ利益をもたらすのみならず、歯科医師、歯科衛生士にとっても、その仕事の価値を高める意義のあるものとなるでしょう。

セミナー参加者は、誰もが熊谷先生の熱い志を受け、非常に有意義な時間を過ごしました。このセミナーは若い世代の歯科医師に、これからの歯科診療所のあり方をより具体的に示してくれたと思います。

伊藤創平 Sohei Itoh
(千葉県・勤務 6 年目)

大雪の日の熱いメッセージ

現在、「予防」、「メンテナンス」というキーワードを何らかの形で意識しない歯科医師は少ないと思います。そのなかでも、日吉歯科診療所と熊谷

崇先生が行われてきた、長期メンテナンスによる予防管理を出版物やテレビで拝見し、私もその技術を知りたい、自分の目でその場を見たいと思っていました。また、熊谷先生が提唱する Oral Physician に対しても興味をもち、今回、日吉歯科診療所で臨床経験 5 年以下の歯科医師を対象としたセミナーが開かれることを知り、さっそく申し込みました。

セミナーでは、医院の豊富な臨床データの提示とともに、いかに科学的根拠に基づいた臨床を実践することが重要か、またそれがいかに患者利益に繋がるか、さらに「Oral Physician」というキーワードに関して参加者が何を学び、何を求めどのような技術を身につけるべきか具体的な内容の講義があり、歯科医療界の先頭を走る先達からの熱いメッセージとして受け止めました。

記録的な大雪のなかで行われた今回のセミナーは、今後、私の医療人としての大きな指標の一つとなるであろう意義深いものでした。

坂井明順 Akiyoshi Sakai
(福岡県・歯科大学大学院生)

歯科医はまず、優れた Oral Physician に

大学での教育は、根管治療、歯周治療、補綴治療といった、いわゆる Doctor of Dental Surgery (D. D. S.) を育成する講義や実習が多く、私は知らず知らずのうちに D. D. S. のスペシャリストを志すようになっていました。また、そのような環境下で、歯科診療におけるエンドポイントとは、審美的で、痛みのない、適合の良い補綴物を装着することだと感じるようになりました。

今回、若い歯科医のための Oral Physician セミナーに参加し、患者利益の真のエンドポイントは、患者が生涯にわたって、口腔・身体に苦痛や不自由を感じることはないことであり、為害性のない

最良の補綴物は健全歯であると再認識しました。

これまでの歯科医療界では、質の高いD. D. S.のスペシャリスト育成にのみ力を入れ、予防を軽視した結果、齲蝕・歯周病罹患患者が増大し、質より量の診療を求められ、質をないがしろにせずには経営が成り立たないような矛盾が生じているように感じます。

D. D. S. のスペシャリストはまず、優れた Oral Physician でなくてはならないと感じました。歯科医師となって間もないこの時期に Oral Physician セミナーに参加できたのは、自分にとって非常に幸運でした。

仲川隆之 Takayuki Nakagawa

(新潟県・大学病院勤務1年目)

予防医療の手本が身近に

私は大学在学中に、補綴学でカリオロジーを学びました。しかし、一般的には多くの診療所で主訴対応型の補綴治療が行われています。この現実をもう一度見つめ直すために、酒田へ向かいました。

日吉歯科診療所を見学し、予防医療を実践する手本がここにあったと、ぐっと身近に感じられました。歯科衛生士が専用の個室ユニットをもち、継続的にバイオフィルムの破壊と除去を行うという、欧米では常識のスタイルに、いかに日本の歯科界は立ち遅れているかを痛感しました。

適切なメンテナンス下において齲蝕と歯周病が予防されれば、主訴対応型の補綴治療は少なくなるはずですが、Oral Physician の視点をもつことにより、D. D. S. だけでは解決できない答えが見えてきます。これからの歯科界で活躍するためには、両方の技量を兼ね備えなければなりません。出来高払いの保険制度のなかでも、歯科医師一人ひとりが努力をし、日本の歯科界全体を変えていければと思いました。

前原美保 Miho Maehara

(岡山県・勤務6年目)



セミナーの様子

若い歯科医のための Oral Physician セミナー 開催予定

開催日：7月16日(日)、12月10日(日)

会場：日吉歯科診療所(山形県酒田市)

対象：歯科大生・大学院生・未開業の勤務医・
歯科大学病院関係者

募集人数：50人

プログラム・内容：

- ・日吉歯科診療所の変遷
- ・日本の過去の歯科医療(古い体質)とこれからの歯科医療(世界水準)
- ・何故 Oral Physician なのか? D. D. S. と Oral Physician
- ・歯科医療を成功するために-SAT with ISO 9001 とは

受講料：無料

申込み先：<http://www.sat-iso.net>

問合せ先：SAT事務局 Tel. 03-5413-1275